Conegliano ValdobbiadeneのProsecco収穫、90％に到達 2026年ヴィンテージは安定の見通し

9月の雨で初期に収穫された軽めのぶどうが回復し、12月の最終生産データまで酸度が主な変数となっている。

2026年9月17日（木）



イタリアのConegliano Valdobbiadene Prosecco Superiore DOCG地域における2026年のぶどう収穫は終盤に近づいており、2025年と概ね歩調を合わせたシーズンになるとの初期兆候が見られる。これは、この原産地呼称を管理するConsorzioによるものだ。

火曜日に公表した最新情報で、同コンソルツィオは9月15日時点で収穫が90％に達したとし、ブドウ畑と醸造所の初期確認から、シーズン序盤の波乱の後も安定した作柄と期待できる品質が示唆されていると述べた。コンソルツィオのディレクター、Diego Tomasi氏は、最も早く入ったロットの一部が予想より軽かった後、9月の雨がぶどうのバランス回復に役立ったと語った。

コンソルツィオによると、ConeglianoとValdobbiadeneの丘陵地帯での収穫は、平年より約10日早く、2025年よりも約1週間早く始まった。これは、気候変動に伴ってより一般的になっている気象パターン、すなわち温暖な条件、冷涼な夜、そして熟成を加速させる晴天に起因するとしている。開始が早かったにもかかわらず、手摘みで急斜面を作業する栽培農家が猛暑の時期に午後の作業時間を短縮しなければならなかったため、収穫全体の期間は例年どおり約20日から25日へと依然として伸びている。

Tomasi氏は、この地域のワイナリーは、必要なら迅速に動けるよう備えていたと述べた。というのも、タイミングの悪い雨はぶどうの健全性にリスクをもたらす可能性があるためだ。しかし、今年はそうした事態は起きなかったという。コンソルツィオによれば、8月24日ごろと8月25日ごろに収穫された最初のぶどうは、予想よりも重量が軽かった。一方、その後に降った雨で樹が再び水分を取り込み、房のバランス回復を助けた。

コンソルツィオによると、収穫後半に降った2度目の雨も同様の効果をもたらした。これらのにわか雨は、作柄の約40％がまだ樹に残っていた時期に降った。Tomasi氏は、これらが衛生上の問題を生むことはなく、むしろその後の気温低下とあわせて、果実の質的な複雑さ向上に寄与したと述べた。ワイナリーに持ち込まれるぶどうの健全性については、非常に強いと表現した。

これはイタリア北東部のぶどう畑だけの話ではない。Conegliano Valdobbiadene Prosecco DOCGは、国際的な飲料市場で最も注目されるスパークリングワインカテゴリーの一つだからだ。作柄規模やぶどうの状態に関する初期の兆候は、輸入業者、流通業者、小売業者にとって、供給、価格、スタイルの見通しを左右しうる。特に注視されるのは酸度で、後にスパークリングのProseccoとなるベースワインのフレッシュさとバランスに影響する。

Tomasi氏は、現時点で最も注目されているのは酸度であり、成熟のこの段階ではゆっくり低下していると述べた。その動きは通常どおりだとし、最終的には醸造所で調整されるのが一般的だと説明した。全体的な品質については、最初に収穫されたぶどうから出ていた初期の懸念は、より多くの果実が入り、醸造所からの初期フィードバックが好意的だったことで和らいだと語った。

コンソルツィオは、この年の最終的な香味プロファイルは11月末までにより明確になるはずだとし、技術部門はその時点でベースワインをより包括的に把握できる見込みだとしている。公式の生産データは、生産申告の法定期限である12月15日に続いて公表される。それまでは、同団体の見解は暫定的なものとして示されている。

それでもTomasi氏は、生産量は昨年と大きく変わらない見通しだと述べた。樹についている房の数から良好な作柄の兆候はすでに見えており、これまでの収穫がその見方を裏づけているという。彼によれば、夏の高温と水不足の期間があったにもかかわらず、結果としては平年並みの年になりそうだ。

コンソルツィオはまた、季節の気象の極端さにもかかわらず、この地域の多様な土壌と微気候はそれぞれの違いを保っているようだと述べた。これは原産地呼称の生産者にとって重要な点であり、Riveとして知られる個々の丘陵エリアに由来するぶどう畑の個性は、品質訴求の重要な一部となっている。こうした違いは、今後数週間に行われるベースワインのテイスティングでより詳しく検証される見通しだ。

現時点で、この原産地呼称からのメッセージは慎重な自信だ。すでに大半のぶどうは収穫され、重大な健全性問題も報告されていないことから、栽培農家とワイナリーは、初期の不透明感を乗り越えた収穫を次の醸造段階に進めている。最初の兆候が維持されれば、安定した数量と堅実な品質の両方をもたらす可能性がある。